

## 地域づくり協議会条例

### 来年度からの実施めざし条例案要綱が出される

8月17日の市議会全員協議会に、市長より(仮称)鈴鹿市地域づくり条例案の要綱が提案されました。いま鈴鹿市では市内全地域で「地域づくり協議会」の設立をめざしています。すでに22地区で協議会ができていて、今年度中に全地域での設立が予定されているとのことです。

条例案では次のような内容が示されています。

**協議会の役割** 市と協働して地域づくりに取り組む。自主的主体的に地域の課題解決と地域の活性化に取り組む。

**協議会の区域** 施行規則で区域内の町名を掲載する。その区域に居住する者全て、活動するもの全てが構成員になる。

**協議会の要件** 各区域に1つとし、他の協議会区域との重複はできない。自治会代表者が運営に参画していること。

**協議会の事業** 地域福祉の増進に関すること。自主防犯及び自主防災に関すること。健康づくりに関すること。子どもの健全育成に関すること。地域振興に関すること。地域文化の継承及び創出に関すること。

環境及び景観の保全に関すること。その他、地域づくりに関して、特に必要があると協議会が認めること。

**地域計画の策定** 協議会は主体的な地域づくり活動を推進するための地域計画を策定する。

**協議会代表者会議の設置** 協議会間の情報共有と交流促進を目的に、会議を設置する。

**市の支援** 市は地域づくりを支援するために、協議会に対して、自主性及び自立性を尊重するとともに、必要な支援(財政的・人的支援)を行なう。

このような条例案を、これから各地域に説明し意見を求めていき、来年の2月定例議会には議案として提案、4月施行を予定しているとのことです。

# 旧満州を訪ねる旅に行ってきました

8月6～12日、日中友好協会三重県連合会主催「中国東北部の旅」に参加しました。主たる目的は、かつて日本が侵略し傀儡国家「満州国」を立てて支配した歴史を、現地で学ぼうということでした。各地の街を歩いたり中国料理を味わったりもしましたが、侵略と支配の現場を回り、この目でその爪



人がいっぱいいる瀋陽の中心街

痕を見るという体験は、いまの日本に生きる私たちの立ち位置を考える上で、得るものがありました。

旅のルートは、まず名古屋から飛行機で大連へ、そして北のハルピンまで「新幹線」で上り、そこからバスで長春、瀋陽と下って、瀋陽から名古屋に戻りました。それぞれの街は人口600～1000万人の大都市ですが、その間はトウモロコシ畑がどこまでも続くという、狭い日本では見られない大陸の風景でした。

次に私たちが見てきた、日本に関係する施設、遺跡などを紹介します。

## 日露戦争の最大の激戦地「203高地」

1904年、ロシア軍の旅順要塞や旅順港を攻撃するなかで、標高203mの高台を確保する戦いが行なわれ、日本兵1万人がここで戦死したといえます。頂上には大砲のレプリカが置かれ、慰霊碑が建てられています。展望は良く、旅順港が眼下に広がっています。日露戦争は、朝鮮・満州の支配を争ったもので、以後日本は満州への進出を加速していきます。



203高地頂上にある大砲



731部隊罪証陳列館

## おぞましい陸軍731部隊の遺跡

ハルピン郊外25haの広大な土地に作られた施設は、細菌兵器、毒ガス兵器などの開発のための軍事基地で、1936年から敗戦までの間、中国人や外国人を使った人体実験を行なったことが明らかになり、その数3000人と言われています。

731部隊の全容を保存記録した「罪証陳列館」を見学して回ると、部隊が行なった生体解剖や実験の現場が再現されていて、見るたびにドキッとなりました。自分が生まれてない時代のことであっても、同じ日本人がやったことだと思えば、やりきれない気分になります。



同時に思ったのは、このおぞましい人体実験を**実行**したのが、優秀な医師、研究者であったこと。かれらはどんな思いで「仕事」に携わっていたのだろうか？そしてその多くは、日本に帰って医学界の要職についているという事実！戦争や植民地支配が人の心を狂わせたのでしょうが、正気に戻った時にどんな気持ちになったんだろうか？いまも731部隊などの戦争犯罪が国民的に明らかにされず、真に反省がされていないのです。

## 多くの人骨が重なり合った遺跡・平頂山



平頂山殉難遺骨館

瀋陽のとなり撫順市では大きな炭鉱、と言っても「露天掘り」で石炭を掘っています。1932年この炭鉱を支配していた日本人が抗日ゲリラに襲撃されたことを理由に、炭鉱守備隊が平頂山集落の住民のほぼ全員（3000人）を虐殺し、火をつけて埋めた「平頂山事件」。事件を記録した施設と「殉難遺骨館」を見学しました。掘り出した遺骨をそのままの形で保存してある場所を上から眺めるようになっていて、おびただしい骨の山に言葉を失いました。ヒロシマの原爆資料館を見るアメリカ人も、こんな気持ちになるのでしょうか？私たちは加害者であり、被害者でもある。戦争で犠牲になるのは、いつも一般庶民である、と目の前の事実が私たちに語りかけてきます。

## 処刑より反省・撫順戦犯管理所

この施設は、中国人を入れるために日本が建てた刑務所を、日本の戦争犯罪人を入れて、学習し反省するための収容所に変えたものです。シベリアに送られていた日本軍人1000人を1950年に連れてきて 食事と運動を保障、強制労働などさせず人道的に処遇しました。



撫順戦犯管理所

そして学習により軍国主義で固まった頭を正常に戻し、自らの罪悪を認め反省した者から順次日本に帰らせる、これが1964年まで続いたといえます。「洗脳」かという見方もありますが、処刑されるかと思われた戦犯が、頭も身体も健全になって帰国できたことは良かったと思います。これは成立したばかりの社会主義中国の、進歩的な一面だと理解しました。その意味でこの施設の見学は、少し気分が楽でした。

---

## 満州・朝鮮への侵略が破局の始まり

日本が「15年戦争」に突入したのは、1931年の満州事変がスタート。37年には支那事変で中国との全面戦争、そして41年アメリカも相手にした太平洋戦争へと拡大し、ついに45年8月、日本は大敗北を喫したのですが、この15年のうち10年間は満州・中国が戦場だったのです。

軍国主義日本は、日清・日露の戦争から一貫して朝鮮と満州への侵略・植民地化をすすめ、略奪と殺りくの限りを尽くしました。それが行き詰まり、国際社会からも孤立してしまい、何の見通しもなく太平洋戦争になだれ込んだ末に、310万人もの死者を出し、沖縄と国中の都市を焼け野原にして日本は破局を迎えたのです。

38年のソ連国境・ノモンハンでの戦闘で大敗した辺りで、間違いを悟り侵略政策を転換していれば、日本はもうちょっとまともな国になっていたでしょう。中国の国民1000万人、アジア諸国、アメリカなども合わせて1900万人もの犠牲を出した日本の15年戦争、その責任は重大です。

この悲惨な戦争を二度と繰り返してはならないと制定された平和憲法・第9条を絶対に変えないこと、それが日本国民の責任だと、改めて思いました。

---

6日間の旅行でしたが、大きな満州の中の一部、大都市（大連・瀋陽・長春・ハルビン）とその周辺、都市をつなぐ鉄道や高速道路を通っただけで、全体像をつかむほどではありませんでした。しかし、行く先々でかつての日本の支配の爪痕を見ることができました。

今回の旅で私は思いました。「こんなだっ広い国に、わが日本はよくも攻めてきたものだ。先に住んでいる人々の街を奪い、土地を奪い、命を奪って居座っても、いつまでも続くはずがないとは思わなかったのか？そんなエネルギーと知恵を自分たちの国のために、そして近隣の国々との共存と平和のために使ったら、どんなに素晴らしい世の中になっただろうか」と。